

常微分方程式の初期値問題

Arnold Robinson

2024 年 6 月 10 日

Theorem 1. $U \subseteq \mathbb{R}^n$ を開集合, $V^i : U \rightarrow \mathbb{R}$ を C^∞ 関数とする ($i = 1, 2, \dots, n$).

$$\dot{y}^i(t) = V^i(y^1(t), \dots, y^n(t)) \quad (1)$$

$$y^i(t_0) = c^i \quad (2)$$

を常微分方程式の初期値問題といい, y を初期値問題の解という. この初期値問題に対して, 以下のことが成立する:

1. (解の存在性) 任意の $t_0 \in \mathbb{R}, x \in \mathbb{R}^n$ に対して, ある t_0 の開近傍 J_0 と x_0 の開近傍 $U_0 \subseteq U$ が存在して, $\forall c \in U_0, \exists y_c : J_0 \rightarrow U$ (C^1 級), y_c が初期値問題の解となる.
2. (解の一意性) y_c, \tilde{y}_c が同じ初期値問題の解ならば, y_c, \tilde{y}_c が共通の定義域で一致する.
3. (解の滑らかさ) J_0, U_0 を解の存在性で登場した開集合とする. この時, $\theta : J_0 \times U_0, (t, c) \mapsto y_c(t)$ で定めた写像が C^∞ 級.

証明を後回しにして, まず重要な道具を紹介する.

Theorem 2 (Gronwall の不等式). 実数 $x_0 < x_1$ に対し, $I := [x_0, x_1]$ とする. $\alpha, \beta, u \in C(I)$ とする. $\beta \geq 0$ とする. この時,

1.

$$u(t) \leq \alpha(t) + \int_{x_0}^t \beta(s)u(s)ds, \quad \forall t \in I \quad (3)$$

を満たすなら,

$$u(t) \leq \alpha(t) + \int_{x_0}^t \alpha(s)\beta(s) \exp\left(\int_s^t \beta(r)dr\right) ds \quad (4)$$

が成立する.

2. さらに α が広義単調増加ならば,

$$u(t) \leq \alpha(t) \exp\left(\int_{x_0}^t \beta(s)ds\right) \quad (5)$$

が成立する.

Proof. $v := \exp(-\int_{x_0}^t \beta(s)ds), w := \int_{x_0}^t \beta(s)u(s)ds$ とする.

$$\begin{aligned} (vw)' &= \exp\left(-\int_{x_0}^t \beta(s)ds\right) \left(-\beta(t) \int_{x_0}^t \beta(s)u(s)ds + \beta(t)u(t)\right) \\ &\leq v\beta(t)\alpha(t) \end{aligned} \quad (6)$$

両辺を x_0 から x まで積分すると,

$$\exp\left(-\int_{x_0}^x \beta(s)ds\right) \int_{x_0}^x \beta(s)u(s)ds \leq \int_{x_0}^x \alpha(t)\beta(t) \exp\left(-\int_{x_0}^t \beta(s)ds\right) dt \quad (7)$$

つまり,

$$\int_{x_0}^x \beta(s)u(s)ds \leq \int_{x_0}^x \alpha(t)\beta(t) \exp\left(\int_t^x \beta(s)ds\right) dt \quad (8)$$

が成立する. 両辺に $\alpha(x)$ を足せば,

$$u(x) \leq \alpha(x) + \int_{x_0}^x \beta(s)u(s)ds \leq \alpha(x) + \int_{x_0}^x \alpha(t)\beta(t) \exp\left(\int_t^x \beta(s)ds\right) dt. \quad (9)$$

α が広義単調増加の場合は

$$u(x) \leq \alpha(x) - \alpha(x) \exp\left(\int_t^x \beta(s)ds\right) \Big|_{t=x_0}^x = \alpha(x) \exp\left(\int_{x_0}^x \beta(s)ds\right) \quad (10)$$

が成立する.

□

Theorem 3 (比較定理). $J \subseteq \mathbb{R}$ を开区間, $u : J \rightarrow \mathbb{R}^n$ を微分可能とする. $f : [0, \infty) \rightarrow [0, \infty)$ を *Lipschitz* 連続関数で,

$$|u'(t)| \leq f(|u(t)|), \quad \forall t \in J \quad (11)$$

ある $t_0 \in J$ に対して $v : [0, \infty) \rightarrow [0, \infty)$ を微分可能な以下の初期値問題の解とする.

$$v'(t) = f(v(t)), \quad (12)$$

$$v(0) = |u(t_0)|. \quad (13)$$

この時,

$$|u(t)| \leq v(|t - t_0|), \quad \forall t \in J \quad (14)$$

が成立する.

Proof. $|u(t)| > 0$ を満たすところにおいて,

$$\frac{d}{dt}|u(t)| \leq f(|u(t)|)$$

が成立する. まず $t_0 = 0$ と仮定する. $J^+ := \{t \in J \mid t \geq t_0\}$ とする.

$$w(t) := e^{-Kt} (|u(t)| - v(t)) \quad (15)$$

と定める. ただし, K を f の Lipschitz 定数とする. $t \geq t_0$ に対して, $w(t) > 0 \implies w'(t) \leq 0$, $w \leq 0$ が成立するなら示すことなく, $w(t_1) > 0$ を満たす $t_1 \geq t_0$ が存在するなら, $\tilde{t} := \sup\{t \in J \mid w(t) \leq 0, t \leq t_1\}$ とすれば, $w(\tilde{t}) = 0$ が連続性に従う. 平均値の定理より, 矛盾が生じる. $t \leq t_0$ の場合は上記の議論で t を $-t$ にすれば良い. $t_0 \neq 0$ の場合は $\tilde{u}(t) := u(t + t_0)$, $\tilde{J} := \{t \mid t + t_0 \in J\}$ に置き換えればよい.

□

Lemma 1. $U \subseteq \mathbb{R}^n$ を開集合, $V^i : U \rightarrow \mathbb{R}$ を局所 Lipschitz 連続関数とする ($i = 1, 2, \dots, n$). $\forall (t_0, x_0) \in \mathbb{R} \times U$ に対して, ある t_0 の開近傍 J_0 , x_0 の開近傍 $U_0 \subseteq U$ が存在して, $\forall c \in U_0$ に対して, 以下の初期値問題の解となる C^1 級写像が存在する.

$$\dot{y}^i(t) = V^i(y^1(t), \dots, y^n(t)) \quad (16)$$

$$y^i(t_0) = c^i \quad (17)$$

Proof. つまり,

$$y^i(t) = c^i + \int_{t_0}^t V^i(y^1(s), \dots, y^n(s)) ds \quad (18)$$

を解くことと同じ, つまり, 次のような写像を適切な定義域で考えて c に関して一様に不動点をもつことを示せば良い.

$$I_c : y \mapsto \left(t \mapsto c + \int_{t_0}^t V(y(s)) ds \right) \quad (19)$$

□